

保護者の皆様

平成29年度 学校評価について (平成29年12月実施)

南足柄市立向田小学校

春暖の候、保護者の皆様にはますますご健勝のこととお喜び申し上げます。また、日頃から本校の教育活動に対し、ご理解とご協力をいただいておりますことに深く感謝申し上げます。

さて、12月7日付け文書にてお願いいたしましたアンケート調査ですが、多くの皆様にご回答をいただき誠に有り難うございました。15の項目すべてについて、児童、保護者、職員がそれぞれの立場から評価した結果を次のようにまとめました。

なお、この結果につきましては、学校運営連携協議会で検討された結果をふまえて、来年度の教育活動に生かし、一層の充実に向けて職員一丸となって取り組めますので、引き続きご協力をお願いいたします。

1. 全般

設問①	対象	あてはまる		だいたいあてはまる		あまりあてはまらない		あてはまらない		50%		80%	
		人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
「学校を楽しみにしている。」	1～3年	131	67%	42	22%	17	9%	5	3%	[Bar chart showing distribution]			
	4～6年	82	36%	93	41%	40	18%	10	4%	[Bar chart showing distribution]			
	保護者	211	53%	155	39%	29	7%	6	1%	[Bar chart showing distribution]			
	教師	13	48%	14	52%	0	0%	0	0%	[Bar chart showing distribution]			
「よいところや努力が認められている。」	1～3年	92	47%	67	34%	26	13%	10	5%	[Bar chart showing distribution]			
	4～6年	76	36%	91	44%	36	17%	6	3%	[Bar chart showing distribution]			
	保護者	180	46%	183	47%	25	6%	3	1%	[Bar chart showing distribution]			
	教師	12	44%	15	56%	0	0%	0	0%	[Bar chart showing distribution]			

全般についての考察

①「学校を楽しみにしている。」について

・子ども、保護者、教員とも概ね「あてはまる」が、多く見られます。しかし、高学年の「あてはまらない」の割合が約2割（約5人に1人）と多いことや、低学年の「あてはまらない」の割合1割（約10人に1人）も気にかかります。高学年は、だんだんと学習が難しくなり、学習面でのつまずきから、学校が楽しいと思えない子もいると思われる。また、「なぜ、あてはまらないのか」という理由がはっきりしていないため、この数字からだけでは具体的な対応が難しい面がみられます。

・原因は多様であると考えられるので、各担任が子どもたちの様子を丁寧にとらえ、対応していく必要があります。集団になじめない子も気になります。カウンセリング等を行い、その背景にあるストレスの原因を取り除いていくよう支援に努めます。担任による日々の学級での子どもの見取りや生活の振り返り（いじめめ）アンケート等を通して、子どもの気持ちを探り、子どもたちが「学校を楽しみになる」というような指導を継続していきます。

②「よいところや努力が認められている。」について

・①の結果と似ています。低／高学年とも「あてはまらない」の割合が、約2割（約5人に1人）と多いことが気になります。子どもは、もっと褒められたいと思っているので、子どもたちが「認められている」と実感できるような具体的な言葉かけや指導等を行っていく必要があります。一人ひとりの自己肯定感を高めていくための、“褒める言葉かけ”が大切です。

・教師側が褒めているつもりでも、自己肯定感の低い子どもは、褒められているという実感が沸きにくいかもしれません。褒める指導や、やる気の出る指導は、学力向上にもつながっていくので、引き続き継続していきます。

2. 確かな学力の向上

50% 80%

設問③	対象	あてはまる		だいたいあてはまる		あまりあてはまらない		あてはまらない	
		人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
「自分から勉強している。」	1～3年	83	42%	58	30%	38	19%	17	9%
	4～6年	59	28%	89	42%	46	22%	16	8%
	保護者	80	20%	168	43%	111	28%	32	8%
	教師	4	15%	18	67%	5	19%	0	0%
設問④	対象	あてはまる		だいたいあてはまる		あまりあてはまらない		あてはまらない	
わかる、できる喜びが味わえる授業の実践	1～3年	113	55%	54	26%	34	16%	6	3%
	4～6年	90	43%	90	43%	23	11%	7	3%
	保護者	101	25%	200	50%	89	22%	10	3%
	教師	7	26%	20	74%	0	0%	0	0%
設問⑤	対象	あてはまる		だいたいあてはまる		あまりあてはまらない		あてはまらない	
授業のユニバーサルデザイン化	1～3年	136	70%	39	20%	16	8%	4	2%
	4～6年	101	46%	93	42%	24	11%	1	0%
	保護者	139	36%	210	54%	40	10%	2	1%

確かな学力の向上についての考察

③ 「自分から勉強している。」について

・保護者の肯定率が、約6割と低いです。保護者の設問の捉え方で、「子どもが自分で課題を見つけて学習する(自主学習)」という捉えよりも、「親に言われる前に自分から学習する」という捉えになっているのではないかと思います。

・保護者から、「宿題をもっと出してほしい」と依頼してくることが多いです。子どもが自分で課題を考え、学習していくという姿勢を育てるということを保護者の中にも意識づけていきたいと考えています(宿題だけをやればよいということではなく)。家庭訪問や懇談会等で、自主学習の取り組み方やねらいを伝えていく(啓発)ことも、「自分から勉強する」という姿勢を育てていくための1つの方法であると考えています。

・宿題は、最低限の学習しか保証することできません。与えられた課題を確実にやり、提出することをファーストステージとし、宿題で補えないものを自分で考えて学習する“自主学習”をセカンドステージとして習慣化させていきたいです。

・中学校の学習につなげていくために、テストに向けた学習の仕方も身につけていけるとよいです。その意味でも、6年間を見通して自主学習に取り組める子に育てていくことが大切であると考えます。

④ 「わかる、できる喜びが味わえる授業の実践」について

・子ども／保護者／教師ともに、8割程度「わかる」と答えていることは、肯定的に捉えたいです。しかし、低学年の段階から学力の二極化がみられ(特に算数)、低学年の約2割の「あてはまらない」と答えた子どもたちが気になります。これらの子どもたちに、どのように対応していくかということが、今後の課題といえます。T.Tや個別指導、ステップアップ学習、えがおの通級指導だけでは、子どもの数とスタッフの数との相対的な関連で、物理的に難しい面も見られます。今後も校内支援体制のさらなる充実を図っていきたいと考えています。

・「学校で勉強したことが分かる」という設問自体が大まかで、「あてはまる」と自信をもって答えづらい設問であると思われる。

⑤ 「授業のユニバーサルデザイン化(UD化)」について

・子ども／保護者／教師ともに「あてはまる」は、概ね9割超えで肯定的な評価です。授業のUD化の2年間の取り組みによって、成果が出てきていると思われる。校内研究会に、授業UD化を位置付けたことで、教師の意識改革につながりました。

・授業UD化の概念／理論や方法論について、教師間でブレがないように、さらに共有化していく必要があります。“子どもがわかる・できる喜びが味わえる授業の実践”をめざすための1つの手法として、今後も教師一人ひとりが継続して研鑽を積んでいく必要があります。

※ 授業のユニバーサルデザイン化とは？

「ユニバーサルデザイン」とは、年齢や性別、障害の有無等を問わず、「誰もが使いやすい環境づくり」という意味で、「ユニバーサルデザイン」という用語が多く分野で使われています。教育の分野でも、「授業のユニバーサルデザイン化」という考え方が広まってきています。授業のユニバーサルデザイン化とは、施設・設備のユニバーサルデザイン化にとどまらず、学習目標や学習方法、教材・教具、評価等、さまざまな面で特別支援教育の視点を取り入れ、どの子どもも、より理解しやすい授業の工夫をめざしていく授業づくりの事です。また、通常の学級には、発達障害のある児童・生徒を含め、授業に対して様々な困難さ(バリア)を感じている児童・生徒が在籍しています。授業を進める上で、発達障害のある児童・生徒には「必要」であり、どの児童・生徒にも「あると便利」な工夫を増やしていくことを大切にいく授業づくりでもあります。

3. 豊かな心の育成

50% 80%

設問⑥	対象	あてはまる		だいたいあてはまる		あまりあてはまらない		あてはまらない		
		人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	
あいさつ・言葉づかい	1～3年	108	51%	57	27%	30	14%	17	8%	
	4～6年	90	43%	91	44%	22	11%	6	3%	
	保護者	103	26%	192	49%	90	23%	6	2%	
	教師	1	4%	13	48%	13	48%	0	0%	
設問⑦	清掃活動の充実	1～3年	119	61%	47	24%	23	12%	6	3%
		4～6年	142	68%	63	30%	4	2%	1	0%
		保護者	163	42%	171	44%	54	14%	3	1%
		教師	7	26%	15	56%	5	19%	0	0%
設問⑧	規範意識の向上	1～3年	117	57%	62	30%	20	10%	6	3%
		4～6年	109	52%	84	40%	16	8%	1	0%
		保護者	172	44%	194	50%	23	6%	2	1%
		教師	13	46%	14	50%	1	4%	0	0%
設問⑨	命を大切に する心、いじめを 許さない心の 育成	1～3年	149	76%	29	15%	11	6%	6	3%
		4～6年	131	66%	64	32%	4	2%	1	1%
		保護者	222	54%	153	37%	33	8%	1	0%
		教師	5	19%	22	81%	0	0%	0	0%
設問⑩	学年活動・異 学年活動・委 員会活動の充 実	1～3年	133	69%	34	18%	20	10%	6	3%
		4～6年	138	66%	53	25%	15	7%	4	2%
		保護者	219	55%	161	40%	20	5%	1	0%
		教師	7	26%	18	67%	2	7%	0	0%
設問⑪	読書活動の推 進	1～3年	83	42%	37	19%	46	23%	30	15%
		4～6年	85	43%	50	25%	39	20%	24	12%
		保護者	94	24%	101	26%	140	36%	56	14%
		教師	6	22%	17	63%	4	15%	0	0%

豊かな心の育成についての考察

⑥「あいさつ・言葉づかい」について

- ・あいさつに関しては、児童は、しっかりできていると感じているようですが、保護者や教師は課題があると感じているようです。あいさつの意義について児童に考えさせ、形だけのあいさつではなく、気持ちのよい挨拶ができる児童を育てていきたいと考えます。
- ・言葉遣いに関しては、乱暴な言い方をしたり、相手が不愉快に感じる言葉を発したりしてしまう子どもも見受けられます。相手がいやな思いをしないような言葉遣いを心がけていくことは、集団生活において、誰もが気持ちよく過ごせることにつながる大切なことであるので、引き続き指導をしていきたいと思えます。
- ・また、いらいらした気持ちで、友達に攻撃的になってしまう子に対しても、配慮をしていきたいと考えています。怒ったときにも手を出すのではなく、ストレスに上手に対処する方法を指導していきます。

⑦「清掃活動の充実」について

- ・児童・保護者・教師、いずれも高い肯定率です。仕事内容がはっきりしていると、どの学年の児童も一生懸命に取り組むことができるようです。これからもしっかりと掃除をしてきれいになった喜びを感じられるような子どもを育てていきたいと思えます。

⑧「規範意識の向上」について

- ・児童も保護者も、児童はやくそくを守って生活できていると感じているようです。『向田っ子の約束』等で、定期的に約束について振り返りの時間を設けるようにして、誰もが約束を守って生活できるように指導を続けていきたいと思えます。

⑨「命を大切に する心、いじめを許さない心の育成」について

- ・児童・保護者・教師、いずれも高い肯定率です。今後も今以上に自分の命だけでなく、友達の命や植物、動物等の命も大切にしようとする心を育てていきたいと思えます。

⑩「学年活動・異学年活動・委員会活動の充実」について

- ・児童・保護者・教師、いずれも高い肯定率です。友達や上級生・下級生と上手に関わることができる子どもがとて多ですが、友達や異学年の子どもとのトラブルも時々見受けられます。学年間や全校で、いろいろな友達と関わる機会を設けて、より良いコミュニケーションがとれるようになっていきたいと思えます。

⑪「読書活動の推進」について

- ・読書に関しては、児童・保護者とも、肯定率は6割前後で、まだまだ読書の習慣が子どもたちの生活の中に浸透していないようです。よりよい読書習慣が身につくように、改めて読書活動を推進していく手立てを講じていく必要があると考えます。家庭でも、お父さんと一緒に読書をする時間を設けるなど、読書に親しむ環境づくりにご協力いただきたいと思います。

4. たくましい心と体の育成

設問⑫	対象	あてはまる		だいたいあてはまる		あまりあてはまらない		あてはまらない		50%	80%
		人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合		
健康・体力づくりの推進	1～3年	137	70%	39	20%	14	7%	5	3%		
	4～6年	106	49%	62	28%	47	22%	3	1%		
	保護者	183	47%	138	35%	61	16%	9	2%		
	教師	9	33%	17	63%	1	4%	0	0%		
設問⑬	対象	あてはまる		だいたいあてはまる		あまりあてはまらない		あてはまらない		50%	80%
交通安全教育、防災教育、防犯教育の充実	1～3年	136	70%	44	23%	7	4%	8	4%		
	4～6年	118	56%	68	32%	22	10%	3	1%		
	保護者	138	35%	219	56%	31	8%	3	1%		
	教師	14	52%	13	48%	0	0%	0	0%		

たくましい心と体の育成

⑫「健康・体力づくりの推進」について

- ・下学年で9割、上学年では8割近くの児童が運動したり体を動かしたりすることを楽しみにしています。本校の特徴として、スポーツ委員会による「長なわ跳び」や「時間走」のキラキラタイムが定着し、全校児童が一斉に運動場で体を動かしています。伝統的取り組みとして、今後も継続していきます。
- ・もう一つ、本校児童の体力の現状として、ボール運動や器械運動に比べると短距離走や長距離走に課題があります。いわゆる「走る」運動について指導内容を充実させていくよう職員で共通理解しています。

⑬「交通安全教育、防災教育、防犯教育の充実」について

- ・全校児童の9割が「安全（地震や火事、交通事故、不審者から身を守る方法）や健康に気をつけて生活している」と自覚しています。今年度は、校舎内に不審者が入ってきた場合の対応法を訓練しました。不審者対応は別のケースも想定されますので、次年度も行います。安全教育の取り組みについては、学校だより等で、家庭にもお知らせします。
- ・協力いただいている「校内・外安全サポート」では、登下校の様子について心配の声も寄せられています。安全な登下校の仕方について、学級で継続して指導していきます。

6. その他

設問⑭	対象	あてはまる		だいたいあてはまる		あまりあてはまらない		あてはまらない		50%	80%
		人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合		
保護者、地域との連携による教育活動の充実	1～3年	110	57%	52	27%	19	10%	12	6%		
	4～6年	73	37%	82	42%	32	16%	9	5%		
	保護者	119	30%	222	57%	46	12%	4	1%		
	教師	10	37%	17	63%	0	0%	0	0%		
設問⑮	対象	あてはまる		だいたいあてはまる		あまりあてはまらない		あてはまらない		50%	80%
教育環境の充実（保護者・教員のみ）	保護者	116	30%	213	56%	47	12%	5	1%		
	教師	8	30%	18	67%	1	4%	0	0%		

その他の考察

⑭「保護者、地域との連携による教育活動の充実」について

- ・皆様の協力のおかげで、8割の児童が「地域やボランティアの人たちと一緒に活動や勉強することが、自分たちのためになっている」と感じています。また、お礼として開いている児童との給食交流会が、たいへん喜ばれています。
- ・地域の皆様の協力は大きいのですが、保護者の理解という点で、懇談会の参加率が低いのが課題です。懇談会は、保護者同士が情報交換できる場でもあります。ぜひ懇談会にご参加ください。
- ・地域ミーティングや学校運営連携協議会で、ふれあい委員会のあいさつ運動と地域の方と連携したあいさつ運動を実施できないか話題になりました。例えば、毎月1日は「あいさつの日」と決めて、回覧板等で登下校時に積極的にあいさつをし合うよう地域への協力を求めるなど、検討を進めていきます。

⑮「教育環境の充実」について

- ・子どもたちが快適な環境で学習できるよう、ユニバーサルデザインを意識した教育環境づくりを今後も続けていきます。
- ・夏季休業期間の短縮を試行することを先日お知らせしました。快適な学習環境が望まれます。空調設備やトイレの改修など、財政的にすぐに取り組めない内容についても、要望を続けていきます。